

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

平成30年度 理事・研究班合同会議開催される

平成30年6月29日(金)午後19時より、さいたま赤十字病院多目的ホールにおいて、2018年度、公益社団法人埼玉県臨床検査技師会、第1回理事・研究班合同会議が開催されました。

会議は神山会長の挨拶から始まり、次に、山口学術部長の挨拶がされました。続いて、第46回埼玉県医学検査学会の長岡実行委員長より挨拶があり、学会を成功させるために各研究班への協力要請がありました。

研究班活動報告は、猪浦理事より、2017年度生涯教育研修会・参加人数、日臨技推進事業研修会についての報告と2018年度事業計画(案)が報告されました。また、神戸理事より、埼臨技として継続契約することになったアンケートツール「クエスタント」の利用説明が行われ、各研究班に積極的な使用が促されました。

最後に班長・生涯教育、会計、精度管理、ホームページの各担当別に分かれ、実際の運用について詳細に話し合いが行われました。

今回の会議を通し、研究班員とし会員の皆様に益々有意義な研修会等提供するために活動していきたいと改めて感じました。

(文責：藤村和夫)



第46回 埼玉県医学検査学会情報

開催日：平成30年12月2日(日)

会場：大宮ソニックシティ

テーマ：『^{ひら}拓く』

サブテーマ：～手を広げ、見て、聞いて、知って、覚えて、繋がって～



第46回埼玉県医学検査学会

演題・抄録の募集を締め切りました
たくさんのエントリーありがとうございました！

第46回埼玉県医学検査学会
実行委員長 長岡 勇吾

第46回埼玉県医学検査学会実行委員長のさいたま赤十字病院院長岡です。通常業務等で大変お忙しい中、演題をエントリーしていただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。当初の7月15日締切を延長する対応を取らせていただきましたが、最終エントリー数は一般演題・学生

演題・CM演題合わせ111題となりましたことをご報告させていただきます。また、賛助会員様には、協賛のご協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。

一地方学会でこれだけの演題数が集まることは、埼玉県のパテンシャルが大変高いことの証明だと思います。その中で、若手技師の初の学会発表という演題も少なくないのかなと思います。抄録を登録しホッとしたところだと思いますが、次のステップとして、スライドをどうやって作ればいいのか？当日は、どのように話せばいいのだろうか？という話になりますね。でも、こういう機会こそ人と繋がるチャンスだと思います。わからないことは先輩、同僚に聞きましょう！研修会等に出向けば他施設の検査技師もたくさんいらっしゃいます。勇気がいるかもしれませんが、チャンスがあれば教えてもらいましょう！実は、私達の学会運営も同じで、会務全てに精通している実行委員はおりませんので、それぞれがこれまでの経験者にお聞きしながら、教えていただきながら試行錯誤で進めております。

12月2日には、ちょっと大変だったけれど演題をだしてよかったなと感じていただけたら実行委員会として大変うれしく思います。そのために少しでもお役に立てるよう、9月のだよりにはスライド作成と送付方法、ワンポイントアドバイス等を掲載する予定です。また、学会企画、ランチョンセミナー、市民公開講演等も実行委員一同準備を進めておりますので、こちらも10月以降のだより紙面上でご紹介させていただければと考えております。

12月2日が有意義な1日となるよう、思い出の学会となるよう今後も努力してまいりますので、どうかよろしくご厚意申し上げます。

平成30年度 第1回 検査室運営研修会のお知らせ

“ご存知ですか？ 医療法改正”

～ 中小医療施設必見・他人ごとでは済まされない!!

医療法改正に伴う精度管理の対応について～

検査室管理運営委員会では管理職のみならず、新人から各々の責任者まで検査室を運営する皆様を対象に研修会を企画しております。平成30年度 第1回 検査室運営研修会は、平成30年12月に施行される医療法・臨技法の改正に係わる精度管理について焦点を当て、下記のように研修会を開催致します。

講師には、中央社会保険医療協議会の専門委員であり日本臨床衛生検査技師会代表理事・副会長でもあります横地常広氏をお招きし、研修会を開催する運びとなりました。

今回、医療の技術の進歩に合わせた、検体検査の分類見直しの法改正に関する経緯や、今非常に話題となっている「臨床検査の品質保証とはどの様なことなのか」を具体的な検体検査の精度管理の方法や各種記録（帳票類など）類など、法令で求められる内容・課題についてご講演いただきます。

中堅技師から管理職の皆様の参加は勿論のこと、将来検査室を背負っていく若手検査技師の皆様にも研修会に参加していただき、日々変化する医療界の流れの中で、自分達の立場・状況を再確認していただく良い機会になれば幸いです。

開催日時：平成30年 9月12日（水） 19：00 ～ 20：30

開催場所：大宮ソニックシティ 906号室

講師：横地 常広（一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 代表理事 副会長）

司会：濱田 昇一（医療法人社団協友会 メディカルトピア草加病院）

参加費：300円

イベントスタッフ募集します

埼臨技事業部では、毎年10月・11月にかけて、日臨技主催の全国「検査と健康展」をはじめ、自治体が主催するわらび健康まつり、深谷市福祉健康まつりへの参加や埼玉県糖尿病協会が実施する糖尿病無料相談会へ技師を派遣しています。

多くの一般市民の方とふれあえ、また他施設の技師さんとも意見交換することができ、非常に有意義な一日となること間違いなしです！今年開催のイベント日程は以下のとおりです。初心者、未経験者でも大歓迎です。ぜひともご参加ください。

【イベント日程】

- 平成30年度 日臨技 全国「検査と健康展」(埼玉県会場)

平成30年11月10日(土曜日) 浦和コルソ

実施予定内容：血管年齢・骨密度測定・検査相談、他

- 第18回 わらび健康まつり

平成30年10月21日(日曜日) 蕨市民体育館

実施予定内容：骨密度測定、他

- 第13回 深谷市福祉健康まつり

平成30年10月27日(土曜日) 深谷ビクタートル

実施予定内容：血管年齢、他

- 平成30年度 糖尿病無料相談会

実施予定内容：血糖測定、他

※複数の日程・会場で実施予定です。決定次第、埼臨技HPにて案内します。

各イベントの実務委員 参加希望締切日は、平成30年9月30日(日)です。

【申込み・問い合わせ先】

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

事業部長 長澤 英一郎(さいたま市立病院)

Mail : hsp-chuuoukensaka@city.saitama.lg.jp



→ 昨年の様子(全国 検査と健康展 in埼玉会場)

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 夜間当直にも役立つ血液凝固検査の基礎知識

～ 遭遇する可能性のある検査異常値とその対応方法から
血液凝固検査に関連する最新のトピックスまで ～

主催 血液検査研究班

実施日時：平成30年6月7日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科ー20点

講師：須長 宏行(積水メディカル株式会社)

参加人数：会員86名 申請中2名

出席した研究班班員：原誠則 星孝夫 網野育雄 圓田和人 軍司雅代 蔵光寛行 渋川絵美
中山智史 石井千晴

研修内容・感想など

血液凝固検査は、検査データの見方についてしばしば苦慮する項目です。今回も、基礎から、異常値の見方、採血手技から検体処理の違いでおきるデータに及ぼす影響まで、講演いただきました。

基礎知識では、検査・疾患・治療薬に関連する項目に注目した凝固因子と凝固カスケードの説明で、非常に分かりやすく、そこから検査の特性・試薬管理の落とし穴について知ることができ、試薬の管理の大切さを再認識しました。

異常値の考え方では、項目ごとにフローチャートを示していただきましたが、検体状態の確認、抗凝固剤投与の有無、病態や臨床症状の確認も重要で、治療薬の抗凝固薬はワルファリン以外にXa阻害薬などもあり、採血のタイミングによって検査データが大きく変化するという点も大事な点でした。

凝固検査は、採血手技や採血量によって大きく検査値に影響が出るということを認識し、病院勤務の場合は他業種スタッフにも、採血の注意点について説明する必要に迫られる場面もありえます。その時に今回の勉強会の内容を思い出して、自信を持って説明できるように資料を読み返したいと思います。

(文責：石井千晴)

テーマ 採血管の基礎を学ぼう ～使用方法と使用上の注意～

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：平成30年 6月22日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科ー20点

講師：海老原 竜夫 (ニプロ株式会社 企画開発技術事業部)

参加人数：会員69名

出席した研究班班員：巖崎達矢 永井謙一 大出淳 安田達明 三木隆治 大谷真澄 藤本丈志
小林麻里子 羽田幸加 北川裕太郎

研修内容・感想など

今回の研修会では海老原氏に採血管の種類や用途、使用上の注意、採血手技など採血管の基礎を中心に幅広くお話しいただいた。

採血管は当初ガラス製であったが、衝撃に対して脆弱で割れやすかったため現在はPET樹脂製へ移行している。生化学検査・血清学検査用の採血管では凝固促進剤を管壁にスプレーコーティングし、血清分離剤を入れたタイプが主流となっている。血中薬物濃度測定やホルモンなどの微量物質の測定では分離剤への吸着が考えられるため、分離剤のないタイプが適している。凝固促進剤に加えてトロンビンやトロンビン様酵素を添加した急速凝固用採血管では、凝固時間を大幅に短縮でき透析やPCIなどのヘパリン投与患者検体、DOAC服用患者検体などにおいて迅速な対応が可能となる。また、遠心分離を行った際に分離不良が生じる場合がある。採血後の転倒混和を行わなかったために抗凝固剤が十分に混ざらなかった場合や決められた放置時間経過前に遠心した場合は、凝固が不完全のまま遠心分離を行うことになるため、遠心後にフィブリンが析出することがある。遠心の条件が満たさなかった場合にも血清と血餅がうまく分離出来ないことがある。そのため採血後の転倒混和を必ず行うこと、放置時間通りに遠心分離を行うこと、遠心条件を守ることが必要となる。

続いて採血についてはJCCLS標準採血法ガイドラインに基づいて、採血時の注意点神経損傷について、採血順序・採血量不足の原因や測定値異常がおこる原因などについてお話しいただいた。採血が起因となる測定値異常については、クレンジングによるカリウムの上昇やシリンジ採血における針先からの薬剤コンタミネーション、細い針での採血や強い転倒混和による溶血などの採血手技によるものから分離剤入り採血管による血中薬物濃度や急速凝固用採血管による一部検査項目への影響、EDTA依存性偽性血小板減少症などの採血管に関連するものなど様々であり、後者においては適切な採血管を選択することが必要である。

今回の研修会はこれから採血業務に携わる技師にとってはもちろんのこと、採血経験者にとっても採血管や採血手技などについて再確認できた有意義な講演であったと思う。

(文責：大出 淳)

テーマ もう一度確認しよう！ 確認培地での菌名決定

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成30年 6月23日 13時00分～16時00分

会場：株式会社 ビー・エム・エル総合研究所 点数：専門教科ー20点

講師：森 圭介 (株式会社 ビー・エム・エル総合研究所)

参加人数：会員33名 非会員2名

出席した研究班班員：渡辺典之 砂押克彦 永野栄子 牧俊一 酒井利育 森圭介 小棚雅寛
毛利光希 千葉明日香 今井美美

研修内容・感想など

株式会社ビー・エム・エル総合研究所の協力による菌株供覧も3回目を迎えた。今回の参加者は、25名で、比較的若い世代の受講者が増えてきている。実習会場の関係で、人数制限があ

るが、その分細かな対応ができる研修である。

最初は、確認培地について観察方法・原理について詳細な講義があり、その後、場所を移して実習を行った。

実習は、6名程度を1班として、4班に分かれて、平板培地でのコロニー性状、確認培地の性状確認から菌名の推定を行った。観察後は、講師の森氏から、同定菌名、判定上の注意点などの解説があり、16時には菌株供覧を終えた。

“普段目にしないが、決して見落としてはいけない”赤痢やチフス、コレラを始め、臨床検査で目にする機会が多い菌種まで、さまざまな菌種が準備されていた。実際の臨床検査の現場では、重要な菌ばかりであった。

実習時間は2時間を予定していたが、短く感じられるほど、密度の濃い研修であった。

実習後は、ビー・エム・エルの霜島氏の案内で、希望者を対象に施設内の見学があった。こちらも普段目にするのできない検査設備を実際の眼で見て、大量の検体を効率よく、誤りなく処理していく様子を実感できた。

また施設内の表示なども、今後ISO15189取得を目指す施設にも参考になる箇所が多い見学であった。

永年継続してきた研修であるが、毎年より良い研修会になるよう、さらに次世代の技師育成の場としても活用していただけるようにしていくことが、臨床検査技師会としての社会的な責任でもあると考える。

(文責：砂押克彦)

テーマ 輸血検査の手技を学ぼう・体験しよう

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成30年7月1日 9時00分～17時00分

会場：東武医学技術専門学校 点数：専門教科－20点

午前コース：初級者のための実技研修会 血液型・不規則抗体検査

午後コース：中級者のための実技研修会 血液型・抗体解離試験

講師：輸血検査研究班員

参加人数：会員 午前：42名 午後：34名

出席した研究班班員：山田攻 渡邊一儀 長谷川卓也 野呂光恵 久保居由紀子 宮澤翔子
小林真弓 小原佑太 伊藤佳世

研修内容・感想など

今年度の実技研修会は午前コースと午後コースにわけて行った。午前コースは初級者が対象で、血液型検査と不規則抗体検査を内容とした。血液型検査では試験管法の正しい手技や反応態度の捕らえ方を、重点的に確認しながら実施した。不規則抗体検査については手技に加えて、消去法から不規則抗体を見逃さない様に捉えられるようになることを重視した内容だった。参加者はルチンや当直業務を始めて間もない方が多いようだったが、今回習得した技術と知識を、日常業務に役立てていただきたい。

午後コースは中級者が対象で、血液型検査と抗体解離試験・抗体同定を内容とした。血液型検査では試験管法による手技の確認と、異常反応を正しく捕らえて、追加検査などの対応についても考察した。抗体検査については直接クームス後に酸解離を実施、解離液をカラム法にて抗体同定を行った。また血漿で試験管法にて抗体同定を行い、それらの結果から、症例患者の状態を推測するとともに、次に必要となる輸血製剤の選択を考察した。中級では認定輸血検査技師を人材している方も多く参加され、グループ内でのディスカッションも積極的に意見が出ていた。

血液型、交差適合試験などの輸血検査は、自動化した施設が増加傾向にあるが、まだ試験管法にて実施している施設の方が多のが現状である。試験管法の正しい手技と解釈・対応は、輸血療法の安全性に直結するといえるため、継続的に手技と知識の確認に努めて安全な輸血療法につながるようにしていただきたい。

(文責：渡邊一儀)

テーマ 第12回 1都2県臨床化学検査研究班合同研修会 『臨床化学の標準化・国際的なハーモナイゼーションの話題』

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：平成30年7月7日 14時00分～17時00分

会場：都立墨東病院 14階講堂 点数：専門教科－20点

講演 1：脂質検査の現状と最近の話題について

講師：山本 啓裕 (積水メディカル株式会社 検査薬統括部 国内営業部首都圏営業所
学術・技術担当)

講演 2 : クレアチニンの国内と会議あの現状について

講師 : 穴田 哲也 (株式会社シノテスト R&Dセンター 生化学ユニット 生化学チームサブチームリーダー)

講演 3 : ALPのJSCC法とIFCC法の相違と最近の動向

講師 : 松下 誠 (埼玉県立大学 健康開発学科 教授)

参加人数 : 会員75名 賛助会員12名 学生1名

出席した研究班班員 : 巖崎達矢 永井謙一 大出淳 安田達明 三木隆治 大谷真澄 藤本丈志
小林麻里子 羽田幸加 北川裕太郎

研修内容・感想など

今年度は1都2県臨床化学検査研究班合同研修会を埼玉県の担当で開催した。臨床化学検査の分野は標準化が進んでいる分野であるが全ての検査で標準化がなされているわけではない。また標準化されている検査も海外との共同研究や臨床試験での測定値の比例互換性が求められている現状より今回は『臨床化学の標準化・国際的なハーモナイゼーションの話題』を企画とし3名の講師に講演いただいた。

講演1 : 日本人の死因別2位3位を占める心疾患・脳血管疾患に係る動脈硬化のリスクには脂質異常症と密接に係している。脂質検査は連続したリポ蛋白が測定対象であり学会等でも定義が決まっておらず標準化がなされていない検査の一つである。特にLDL-Cは製造メーカーにより測定値の正確性の問題を指摘されていたが試薬の改良・スタンダードの値付け修正等が行われ日常診療の範囲では測定の妥当性が確認されている。動脈硬化性疾患予防ガイドラインにおいてもLDL-C値はFriedewald式での評価であったが2017年版より直接法の評価が再記された。しかし診断基準や治療目標値の根拠はFriedewald式に基づいていること、中性脂肪が1000mg/dL以上の場合は正確性が担保できないことが明記されている。国内の中性脂肪測定はグリセロール製剤の混入を想定し測定の間生成物のグリセロールの影響を回避する為、あらかじめ試料中のグリセロールを消去する方法を採用している。しかし循環器疾患の増加によりヘパリン投与患者の血中では遊離したLPLが中性脂肪をグリセロールと脂肪酸に分解することにより消去法では中性脂肪の値が疑低値となることが指摘されている。海外ではグリセロール未消去法が主流であり今後国内でも消去法・未消去法のどちらになるのか検討が必要であるとのことであった。

講演2 : 国内のクレアチニンは血清中のピルビン酸・アスコルビン酸などと反応するJaffe法からクレアチニンに正確に反応する酵素法にほぼ全ての施設が移行しており標準化がなされている検査である。しかし海外では未だJaffe法が主流であり医薬品の治験が欧米で行われていた多くの添付文章に記載されている腎機能はJaffe法で測定されており、CCrで表記されている場合は1.2~1.3倍に換算する必要がある。また推算糸球体濾過量:eGFRが日常診療で用いられクレアチニン測定値の表記は小数点以下2桁表記が求められているが、小数点以下3桁が保証されていない現状を考えるとeGFRの結果の解釈には注意が必要である。

講演3 : ALPは血清中に含まれる肝型・骨型・小腸型及び胎盤型などの各アイソザイムの総和を活性として定量しており主に肝胆道系疾患、骨疾患の指標として用いられる。国内では、ほぼ全ての施設がアミノアルコールにEAEを用いたJSCC法であり標準化の進んだ検査の一つである。しかし、使用するアミノアルコールにより個々のアイソザイムのリン酸転移および加水分解作用は異なり測定値に影響を及ぼす。JSCC法に用いられるEAEではB型またはO型で分泌型の小腸型ALP分画により他の血液型または非分泌型に比べALP総活性値が高値であることが指摘されている。その原因として小腸型はさらに、高分子型・ノーマル分子型に分けられ、高分子型はB型またはO型で分泌型に発現すること。ノーマル型は脂肪食後に急激に増加しB型またはO型で分泌型がそれ以外の血液型に比べ3~5倍程度増加することが挙げられた。基準範囲は血液型・食後によって本来は異なるが全ての血液型情報の取得は不可能であり従来使用されている基準範囲の取り扱いには注意が必要であるとのことであった。諸外国では緩衝液にAMPを採用しているIFCC法が使用され小腸型に対する反応性はJSCC法に比べ約60%である。血液型の問題等により日本でもIFCC法への変更に向けプロジェクトが始動しているとのことである。小腸型の反応性の改善とともに基準範囲が現在の1/3程度になることから臨床への案内を検査室から発信することが大事であり今後の動向に注目していきたい。

(文責 : 巖崎達矢)

テーマ 遺伝子解析の基礎 シリーズ1 ~ PCRの原理から検体取扱いの留意点を中心に ~

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時 : 平成30年 7月13日 19時00分~21時00分

会場 : 大宮ソニックシティ 601号室 点数 : 専門教科-20点

講師 : 白神 博 (サーモフィッシャーサイエンティフィック)

ライフテクノロジーズジャパン株式会社)

参加人数：会員29名

出席した研究班班員：穴原賢治 鈴木勤 立塚梓 鈴木智子 吉田翔平 石井孟

研修内容・感想など

今回の研修会は、サーモフィッシャーサイエンティフィック ライフテクノロジーズジャパン株式会社の白神博氏にご講演いただいた。遺伝子検査の基礎と題し、遺伝子学、遺伝子検査学の初歩的知識から、主にPCR法での実務上での注意点などの説明があった。

PCR法の原理について、図を用いて詳細かつわかりやすい説明があった。また、PCRが失敗する要因とその解決法についても解説していただいた。応用例について、リアルタイムPCR法、デジタルPCR法をあげ、その活用例を解説していただいた。精度管理について、作業工程ごとの注意点をあげられた。とくにピペット操作をはじめとした作業手順の習熟、コンタミネーションを防ぐための環境の整備、各作業工程での陽性・陰性コントロールの設置などを強調された。

検体検査の分類において、遺伝子検査は各検査分野の一部である。しかしゲノム医療の実用化や、ISO 15189の関連など、遺伝子関連検査・染色体検査として独立した検査分類となるよう見直しが進められている。遺伝子検査は臨床検査および診療に欠かせない領域であり、今後多くの施設が施設内での検査導入を検討するであろう。今回の研修会はシリーズ1であり、当日回収した出席会員のアンケートをもとにシリーズ2、3と続くよう努めていきたい。

(文責：石井 孟)

求人案内

- 医療法人 智健会 イーストメディカルクリニック
採用条件：臨時職員(パート)
連絡先：048-799-2111 事務長 長谷川 英
- 株式会社ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター
採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：049-234-7310 人事課 古田島
- 医療法人社団 碩成会 島田台総合病院
採用条件：正職員2名
連絡先：047-488-7788 太田
- 越谷市立病院
採用条件：正職員 平成31年4月1日採用
臨時職員(パート) 随時
連絡先：048-965-2221 内線2201
臨床検査科 渋谷
- 一般社団法人 巨樹の会 所沢明生病院
採用条件：臨時職員(パート)
連絡先：04-2928-9110 総務課 三次
- 医療法人社団 協友会 彩の国東大宮メディカルセンター
採用条件：正職員
連絡先：048-665-6166
人事課 採用担当 大山
- 社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス 東埼玉総合病院
採用条件：正職員
連絡先：0480-40-1311 総務課 採用担当
- 川越市役所
採用条件：正職員
連絡先：049-224-5553 職員課 人事担当
- 医療法人社団 武蔵野会 朝霞台中央総合病院 ドック健診センター
採用条件：臨時職員(パート)
連絡先：048-466-8066 内線641
健診担当 大墨
- 医療法人社団 哺育会 アルシェクリニック
採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：048-640-6561 内線29
検査科 渡邊
- 医療法人 大宮シテッククリニック
採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：048-645-1256 本部長 星野
- 草加市立病院
採用条件：正職員
連絡先：048-946-2200 内線3003
経営管理課庶務係 高橋

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

埼臨技ひろば

釣り大会開催のお知らせ

埼臨技有志釣りクラブ

恒例の釣り大会を開催いたします。この時期たくさん釣れて、脂がのっていて、とてもおいしいアジ釣りを予定しています。釣り船を仕立てて参加者のみで釣りをしますので、他の方に気兼ねなく参加できます。釣って楽しく食べておいしい釣りを一緒にいかがでしょうか。初心者、ご家族も大歓迎です。 担当 埼玉県立がんセンター 岡田茂治

開催日：9月16日(日) 参加費：1,000円 乗船代：約9,000円位

申し込み先：sairingi.fishingclub.sanka@gmail.com

平成30年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第5回 理事会議事録

日 時：平成30年7月12日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事) 神山 矢作 松岡 小山 濱本
山口 鳥山 阿部 奈良 長岡
小島 神嶋 菊池 長澤 伊藤
濱田 笹野 石井 神戸

(監事) 遠藤

欠 席：(理事) 岡田 猪浦

(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は19名で、現在数21名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (平成30年6月14日～平成30年7月11日)

6月14日(木)平成30年度第4回理事会：

神山、矢作、松岡、濱本、奈良、長岡、小島、神嶋、菊池、長澤、伊藤、濱田、笹野、石井、神戸、山口、鳥山、猪浦、阿部、遠藤

6月15日(金)第46回埼玉県医学検査学会第8回実行委員会：長岡、神嶋、菊池

6月18日(月)さいたま地方法務局に役員変更の登記提出：神山

6月23日(土)日臨技平成30年度定時総会：神山、岡田

6月25日(月)全国健康保険協会管掌健康保険及び厚生年金被保険者の資格及び報酬等の調査：小山

6月27日(水)第18回わらび健康まつり第1回実行委員会：長澤

6月28日(木)第13回深谷市福祉健康まつり第1回実行委員会：濱田、笹野

6月28日(木)第1回事業部会：神山、矢作、濱本、長澤、神嶋、伊藤、濱田、笹野

6月29日(金)理事・研究班合同会議：神山、矢作、松岡、小山、濱本、長岡、菊池、長澤、笹野、石井、神戸、山口、鳥山、阿部、猪浦

6月30日(土)日臨技関甲信支部幹事会：神山

6月30日(土)一都八県会長会議：神山

6月30日(土)・7月1日(日)検体採取等に関する厚生労働省指定講習会【東京171】：松岡、小山、奈良、猪浦、石井、伊藤、濱田、阿部

7月2日(月)第1回三役会：神山、岡田、矢作、松岡、小山、濱本

7月2日(月)第1回事務局部会：神山、岡田、矢作、松岡、小山、濱本

7月4日(水)総務部会：神山、岡田、矢作、奈良、長岡、小島、神嶋、菊池

7月4日(水)会計部会：神山、松岡、石井、阿部、神戸

7月4日(水)埼玉りそな銀行登記変更：松岡

7月7日(土)一都二県臨床化学合同研修会：神山

7月10日(火)埼玉県医師会精度管理システム会議：山口、猪浦

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 6月18日、さいたま地方法務局に役員変更の登記提出を行い、完了した。

2) 鳥山理事を学術部副部長に選任した。

3) 平成30年度埼玉県臨床検査精度管理専門委員及び川越市臨床検査精度管理専門委員の推薦があり、神山清志氏、藤野真治氏、荻野毅史氏を推薦した。

4) 6月23日に日臨技平成30年度定時総会が東急レイホテル大森で開催され、神山会長が理事に選任され、後の理事会で関甲信支部長に選定された。

5) 7月7日の一都二県臨床化学合同研修会開催(都立墨東病院：担当県は埼玉)にあたり、巖崎班長より会長の挨拶依頼があったため、神山会長が参加した。

6) 7月2日、三役会、事務局部会を行った。

7) 一般検査TOCHIGIセミナーの後援を行った。

8) 平成30年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会一般演題の募集が延長となった。

2 総務部

1) 7月4日、総務部会を開催した。

2) 「埼臨技だより」第470号、7月15日発行予定

3) 平成30年度会員名簿7月15日発行予定

3 事業部

1) わらび健康まつりの実行委員会に参加した。

2) 深谷市福祉健康まつりの実行委員会に参加した。

3) 第1回事業部会議を開催した。

4 学術部

1) 埼臨技会誌 (Vol.1.65 No.1 2018) 7月20日発行予定。

2) 平成30年度理事・研究班合同会議を開催した。

5 精度保証部

1) 特になし。

6 会計部

1) 平成30年度正会員費95名475,000円、入金金81名分81,000円合計556,000円の入金があった

2) 生涯教育推進研修会助成金50,000円×3、

- 46,500円×1計196,500円の入金があった。
- 3) 石井印刷へ、埼臨技だより第469号印刷代125,534円、封筒角2 71,280円合計196,814円を支払った。
- 4) 平成30年度分会費5,000円×5名合計25,000円を退会会員に振り込んだ。
- 5) 会計部会を行い、平成30年度の役割分担等の確認を行った。
- 7 精度管理委員会**
- 1) 7月10日、埼玉県医師会精度管理システム会議を開催した。
- 8 一都八県会長会議**
- 1) 6月30日に平成30年度第一回一都八県会長会議が市ヶ谷の都臨技事務所で開催され、神山会長、矢作副会長が幹事に選任された。また、矢作副会長は、会計・HP担当の副議長に選定された。
- 9 日臨技関甲信支部**
- 1) 6月30日に平成30年度第一回関甲信支部幹事会が市ヶ谷の都臨技事務所で開催された。
- 10 日臨技**
- 1) 6月23日に大森の東急レイホテルにて平成30年度日臨技定時総会が開催され、事業報告案、収支決算、平成30・31年度役員選任全てが可決された。
- その中で、神山会長が理事に選任され、後の理事会関甲信支部長に選定された。なお、当県の委任状・議決権行使数は2037名、71.12%の高い回収率であった。
- 11 第46回埼玉県医学検査学会**
- 1) 6月15日、第8回実行委員会が開催された。
- 2) 一般演題の抄録締め切りを7月22日に延長した。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(平成30年度分)

平成30年7月2日現在

会員数 3,005名[平成29年度会員数2,897名]

(新入会員 176名)

賛助会員 63社[平成29年度 86社]

承認された。

- 2) 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 委員会規定の改定について

承認された。

2 総務部

- 1) 特になし。

3 事業部

- 1) 特になし。

4 学術部

- 1) クエスト使用許可願い申請書と管理表について

申請書と管理表について学術部が管理することで承認された。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 特になし。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし。

8 第46回埼玉県医学検査学会

- 1) 特になし。

Ⅳ. 議題

- 1) 特になし。

Ⅴ. その他

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

先日の7月15、16日、検体採取講習会のスタッフとして、丸2日間都内の飯田橋で行動しました。検体採取講習会のスタッフを埼玉県が担当するようになって今年で3年目だと思います。その間、永田町、お茶ノ水、虎ノ門、三田、飯田橋など・・・都内の有名箇所を訪れ、講習会時の昼食や1日目の懇親会では周辺のレストランや居酒屋にスタッフ皆で繰り出し、ワイワイと楽しい時間を過ごします。

検体採取講習会だけではなく、学会、研修会などでも、北は北海道、南は沖縄県まで各地で開催されるため、いろいろな都市にでかけます。臨床検査技師になりたての頃は、このように日本各地をあちこち渡り歩くような行動をすることを、想像もしていませんでした。余暇のための旅行とは違う研修旅行は、緊張感があったり、忍耐力が必要だったりします。でも、最近病みつきになりつつあるのは、普段の生活圏から抜け出すと、学びの刺激を受け、気分的にリフレッシュできるからでしょうか。また、そこで旧友と出会うなど、思ってもいない事が起こるからでしょうか。

次はどこの研修会、どこの学会に行こうか、あるいは検体採取講習会の日程はいつなのかを常に考えている自分がいます。これからも体力と金銭が続く限り、細長〜く続けて行きたいと思います。



(小島 記)